

カトリック 仙台教区報

2013年7月7日

No.212

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

平和憲法は世界の宝！

安倍政権は経済成長戦略、いわゆる「アベノミクス」を掲げ、国民の支持を広げ、その勢いに乗って、7月28日の参議院議員選挙で憲法改定に必要な3分の2の勢力を確保しようとしている。憲法改定手続きを定めた96条を変えて、憲法改定のハードルを下げ、戦争放棄をうたった憲法9条、基本的人権を定めた97条など、憲法改定への動きを進めている。何としてもこの平和憲法を守りたいと、「憲法9条を世界の宝に」のスローガンのもと、日本カトリック正義と平和協議会では、松浦悟郎大司教区補佐司教を写真を招き、6月2日(日)、元寺小路教会で講演と勉強会を開催した。講演には120余名、その後の勉強会には44名が参加。

自民党の目標は憲法改定にある。戦後間もなく発足した自民党の目標は、憲法を変えることにあった。朝鮮戦争をきっかけに「警察予備隊」が発足、その後「自衛隊」となったが、憲法9条で陸海空軍その他の戦力を保持しない、国の交戦権を認めないことと定めていることから、自衛隊を海外に派兵することができない。

湾岸戦争(1991年)をきっかけに、国際貢献の名目で初めて自衛隊を派遣したが、これは、国連平和維持活動(PKO)への協力という憲法の拡大解釈によるものである。憲法の拡大解釈も限界にきたことで、政治の場では、改憲派が多くなっている。

憲法の危機はむしろチャンス。改憲には国会議員の3分の2の賛成が必要となっている96条を替える



守ろうとする人が積極的に投票すれば、改憲を阻止できることになる。

憲法は国民を守るためにある。憲法は国民を守るためにある。憲法は国民を守るためにある。

自民党の憲法改正案には、国民の権利や自由を「公益や公の秩序に反しない限り」という制限を設けようとしている。これでは、権力者が国民を縛る憲法になってしまふ。

現在の日本では、どんなデモでも

許される。しかし、改憲後は、例えば「原発反対デモ」をすれば、公益に反するということで、取り締まられることになるかもしれない。

憲法前文の理想

日本国憲法の全文を読むと涙が出るほど素晴らしい。正にキリスト教的でさえある。

その前文に「誇りと気概を持つて国を守る」という文言が追加されようとしている。

さらに、9条で、自衛隊を「国防軍」とし、戦争が出来る国になる。やがて、徴兵制度が法律で定められれば、子どもや孫が戦争に駆り出されることもありえる。

国家の緊急事態に備えて「緊急事態法」が成立すれば、国民の権利が大きく制限されることになる。

憲法9条はアジアの安定に寄与9条の縛りがあることで、アジア諸国はめったなことでは日本に手出しをしない。中東での紛争や、内戦の中でも、日本人が安心して活動できた。憲法改正の論議が盛んになって以来、経済水域への侵入や、領海侵犯が増えた。

不戦の誓い

広島原爆記念碑には、「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」と刻まれている。

日本が平和のために尽くし続けることが、世界に対する償いになる。

憲法を変えて、軍隊を海外に出すことが平和に尽くすことではない。

今こそ、私たちは、平和憲法を堅持する意思をはっきりと示していきたい。(講演要旨)

生命の泉

「絆のローソク・リレー」総編集が発行された。2011年7月から1年かけて教区内の57教会、29修道院、教会関係の施設、事業所をくまなく巡った。ページごとに写真と添えられたメッセージには大震災を信仰で受け止めている様子が伝わってくる。そこから切実に思われることをいくつか記す▼司祭の召命が少なくなりイエス様が呼びかけられた「小さな群れよ」(ルカ12・32)が現実味を帯びている▼教育事業や福祉事業は社会的な評価も高く発展しているが教会の事業としては大きな曲がり角にある。始めた当初は教員が協力し合って社会に奉仕してきた。今は国が補助金を出して経営がしやすくなったが、国や社会の価値観を共有することになり、教会らしい活動の独自性が損なわれつつある▼イエス様が私たちを働きに召し出した時「五つのパンと二匹の魚」で5千人に食べさせよとの不可能と思われることに駆り出した。弟子たちは「お言葉ですから」(ルカ9・13)と慣れない任務に取り組んだ、こうして「主と共に働き」私たちの信仰が育った▼私たちは信仰をいただいた者として信徒が少なくなるが、年を取っていくと病気であろうと主と共に働く▼宣教するとは救いの特効薬を携える事ではない。「主よ、いづれあなたが飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、(いつ)のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしようか」(マタイ25・35)右手の働きが左手に隠れているように自然でさりげないような新しい人に造りかえられるとき、神さまのふさわしい働き手となる▼み言葉によって変えられた人こそ「見えない神」を伝えるのにふさわしい。(守)

松浦司教と共に憲法を学ぶ

一人ひとり自分のこととして憲法を考えよう

講演の後、午後1時から、信徒ホールに会場を移して、勉強会が開かれた。参加者は、6～7人ずつグループになって着席。

松浦司教は、「私が、今回のような話をする、後でたくさんの方から丁寧なお手紙をいただきます(笑)。教会が政治的な発言をするのはよくないと思う。まして、司教がそういう話をするのはよくないという意見です。そこで、『なぜ教会は社会問題にかかわるのかQ&A』(日本カトリック司教協議会 社会司教委員会・

編)を出版しました。ぜひ読んでください」と、前置きして、午前中の講演内容の要旨を話された。

その後、グループで話し合った。各グループから質問や、話し合いの発表があり、松浦司教からさらに話を聞いた。

福音に照らして慎重に考えて投票することが大事だと思う。

原発推進や憲法改定については、政治的バランスを考慮して、批判票として投票することもあると思う。信仰者として、あらゆる事柄について信仰に照らして選択することが求められる。

〈Q〉国連PKOで派遣された自衛隊は、友軍が攻撃された時に憲法の縛りがあるから何もできない



い。見ているしかない。だから9条を変えなければならぬのだと改憲派が主張している。

そういわれると、反論できなくなってしまう。

〈A〉そういう、一つの場面だけを想定して9条を変えなければならぬというのは、当たらない。

中東やアフリカで現地のために働いている日本人の安全は、日本が軍事力行使できないことにかえって守られている。アフガニスタンで働く医師 中村哲さんは自衛隊が来ると、今まで現地で苦勞して築き上げた友好関係や信頼が崩れ、現地での活動ができなくなってしまうと言っている。

9条は、日本が武力ではなく、友好関係を築くことで平和を保つ努力を求めている。軍事力の行使は平和への努力を無にする。

〈Q〉教会の中で、憲法の話は出ない。でも、憲法9条が改定され、子どもや孫が戦場に送られることだけは絶対にさせたい。

〈A〉私たちは、原発のことも、憲法のこととも一人ひとり自分のこととしてとらえて欲しい。政府の意向に反対する発言をすると捕えられたり、殺されたりする国

地区制ということ (2)

司教 平賀徹夫



仙台教区は2014年度から「地区制」の形をとって進みたい、ということを示してきました。多くの教会(小教区)で、この件について、県の連絡協議会に向けての話し合いを重ねてくださっている様子が聞こえてきて、ありがたく思っています。これからさらに小教区での話し合いを重ね、意見や質問、提言等をどんどん寄せてくださるようお願いします。そしてそれを、9月の教区宣教司牧評議会でまず集約できることを期待しています。

地区制度とは具体的にどのようなものか見えてこないのも心もとない、というような声が多く聞こえてきました。いくつかを紹介すると、次のようなものです。「地区制度となれば小教区の統廃合が進み、今まで所属し親しんできた教会が廃止されたり、あるいはもうそこに集まれなくなるのではないか」「教会も高齢化が進み、高齢者は今の教会に通うことも難しくなる。まして、さらに遠い教会までは行けない」「高齢化とともに年金生活者が多くなり、教会維持も簡単ではなくなるのに、他の教会のことまで責任を負えない」「地方の教会では距離的な問題もあって教会間の交流が難しい」「司祭も高齢になれば車の運転も大変になろうし、担当の地区が広くなれば、地区内でも巡回・移動ができるのか」「県境を越えての地区設定は大丈夫か」「地区内のカトリックの事業所との関わりはどうあったらよいのか」等々。

それぞれもったもな意見です。ただ、一番目に例示した意見は誤解によるものです。地区制度は小教区教会の統廃合のためではありません。今までの小教区での交わりはそれぞれに大切に合ったうえで、「わたしたちは主において一つに呼び集められた神の民」の意識を、その小教区の枠を越えて地区へと広げたいのです。

二番目以下の意見はみな、いま現実と直面している懸案事項です。だからこそ、それに対応するために、司祭間でも、また、司祭・信徒・修道者との間でも、今以上の協力関係を作って行かなければなりません。“三人寄れば文殊の知恵”ではありませんが、神からの光と知恵を祈り求めながら知恵を出し合いたいのです。

司教日程

7月・8月

- 7・3 日本カトリック神学院(東京)
- 5 社会司教委員会
- 5 部落差別人権委・事務局会議
- 6 カリタスの丘後援会(仙台)
- 7 カトリック宮城県大会
- 9 10 東京教会管区会議
- 14 十和田教会
- 16 司教評議員会・司祭団役員
- 18 部落差別人権委・定例会
- 20 宣教司牧評・役員会
- 21 信仰養成講座
- 24 21 東仙台教会
- 24 21 25 岩手カトリック幼稚園
- 26 連盟研修会(花巻)
- 26 第23回サポーター会議(宮古)
- 27 28 部落差別人権委・合宿
- 29 30 青森カトリック幼稚園
- 8 連盟研修会(三沢)
- 1 人権を考える委員会
- 5 6 平和行事・広島
- 11 平和旬間ミサ(元寺小路)
- 11 平和祈禱集会
- 13 司教認定例・教区司祭団・役
- 17 信仰養成講座
- 19 宮城カトリック幼稚園
- 20 連盟研修会(仙台)
- 20 福島カトリック幼稚園
- 20 連盟研修会(福島)
- 21 21 仙台サポーター会議(原町)
- 26 27 仙台教区司祭の集い

もある。それでも、命をかけて発言する人もいる。日本は、憲法で守られているから自由に発言できる。この自由は使わなければ失われてしまう。ぜひいろいろな場面で、自分の責任において声を出してほしい。

最後に、松浦司教は「憲法9条を世界の宝に」するように頑張りますようにと、参加者を励ました。

「第二バチカン公会議を、今日に生きる(Ⅲ)」 典礼が教会を変える 佐々木 博

(1) 典礼刷新から始まった
第二バチカン公会議が最初に
取り組んだのは、典礼改革で
あった。なぜなら、すでにヨー
ロッパの教会では、「典礼運動」
によって着実に典礼刷新を準備
していたからである。だから、
典礼の原点に立ち返って、本来
の典礼の姿を大胆に再発見する
ことができたと言える。

ついに、教会活動における典
礼の最重要性を宣言できた。



「典礼は、
教会の活動
が目指す頂
点であり、
同時に教会

札幌教区に新司教任命

ローマ教皇フランシスコは6月
22日正午(日本時間、同日午後
7時)、3年7カ月の間、司教不
在となっていたカトリック札幌教
区の新しい司教に、札幌教区事
務局長の勝谷太治(かつや・たいじ)
師(57歳)＝写真＝を任命すると
発表。教区長として6代目。



同教区は2009年、前司教の
地主敏夫司教が引退し、新潟教
区の菊地功司教が札幌教区管理
者を兼任してい
ました。叙階式
は10月14日。

のあらゆる力が流れ出る泉であ
る。〔「典礼憲章」10項〕。

(2) 典礼共同体の育成

中世以来、典礼における信徒
の役割が消極的になり、司式司
祭と会衆の分離が聖堂の構造に
もなっていました。つまり、内
陣と会衆席は、聖体拝領台で仕
切られてしまった。

だから、典礼の主体は、大祭
司キリストと共同体全体である
ことを、改めて確認する必要が
あった。

したがって、「キリスト信者
が、この信仰の秘義に、外来者、
あるいは無言の傍観者として列
席するのではなく、儀式と祈り
によってこの秘義をよく理解し、
聖なる行為に、意識的に、敬虔
に、また行動的に参加し、神の
ことばによって教えられ、主の
体の食卓において養われ、神に
感謝をささげ、ただ司祭の手を
通してだけでなく、信者も司祭
と共に清い供え物を奉獻して自
分自身を奉獻することを学び、
こうして、キリストの仲介者とし
て、日々神との一致と相互の
一致の完成に向かい、ついには
神がすべてにおいてすべてとな
るように全力投球するのであ
る。〔「同憲章」48項〕。

(3) 典礼の源泉である聖書
典礼は、事実、聖書のみこと

ばによって成り立っていること
を再確認した。

「一つの神のことばが持つ多
様な豊かさは、さまざまな祭儀
において、またその祭儀に参加
する信者の集会において見事に
表れてくる。それは、キリスト
の秘義が一年の周期で展開する
中で想起され、あるいは教会の
秘跡や準秘跡で行われ、また聖
霊の内的な働きかけにおのの
信者が答えるときに起きる。」
〔「朗読聖書の諸言」3項〕。



北仙台教会 村中 昭子

私の信仰は両
親から受け継い
だものです。週
りと母方の曾祖
父は新潟で座礁
した宣教師の
乗った船を助けたことから洗礼

信仰年、「信徒としての問いかけ」④

青森本町教会 佐井 総夫

小さな人々に寄り添う大切さ。5月の連休に、岩手・宮城両県の被災地を巡り、気付けられたことがあります。私は、正直に申しますと、既に震災から二年という月日が経つにもかかわらず、一度も足を運ぶことなく、様々な報道による情報のみから被災地を悲観的な面からしか捉えていませんでした。そして、どこか被災地から逃げていたように思います。

を受け、後に50才で当別のトラ
ピストへ入会し生涯を終えまし
た。帰天して100年経ちました。
父方の祖父が札幌近郊の開拓
されたばかりの奥深い山の中を
馬に乗って宣教していたパリ外
国宣教会の神父様より洗礼を受
けたのが始まりです。その後教
会が出来、兄や姉たちの時代ま
で1里の山道、雪道をいつも
通ったと聞きました。ですから
私が小さいときから生活の中心
にいつも教会がありました。

現在の私は聖パウロ書院＝写
真＝でシスターとともに働かせ
ていただいています。お店は実
に様々な方たちとの出会いの場、
宣教の場です。キリスト教の本
や品物を求めて来てくださるの
ですが、教会への案内所、安心
して話せるオアシスでもあると

しかしこの度、実際に被災地
に自分の身を置き、その惨状の痕
跡をこの目で見て、現地の人とふ
れ合い、お話を伺うことで、そこ
に生きる方々の力強く逞しい生き
方を知り、今まで知らなかった被災
地の積極的で明るい姿勢から逆
に励まされ希望をもらいました。
私たち人間は、人生を生きて
いく中で不条理で理不尽な出来事
に日々出くわします。それは自分
の力だけではどうしようも出来な
いこともあるのですが、いずれに
せよ、私たち人間は、神さまの御

摂理の中で生かされているというこ
とでもあると思うのです。
特に、苦境に立たされた時に、私
たちが出来ることと言えば、神さまの
愛に信頼し希望を失わずに、互いに
寄り添い合いながら生きるというこ
とです。それは、正に私たちの主イ
エス・キリストがお示しになったイ
ンマエルの神の生き方を実践する
ことです。私たちは、互いに寄り添
い合うことで、生きる希望をお互い
に与え合うことが出来ます。困難を
抱えた小さな人々の中に、私たちの
主はおられるのです。



盛岡地区ナザレの会 被災地支援活動

ナザレの会は、盛岡市内三教会（上堂・志家・四ツ家）の信徒有志でつくっている小さなボランティアグループです。必要な人に必要な時に、必要な手を!!』を合言葉に、はじめは盛岡のホームレスの方々に食事や生活上の支援を行なっていました。しかし、その方々が一定の場所に落ち着いて私たちが関わりが少なくなってきた頃に、あの3・11の大震災が発生しました。フットワークの軽さから、

すぐさま沿岸地域に駆けつけました。はじめは避難所への炊き出し、衣類や生活用品の提供など。教会の信徒の皆さんからも協力を頂きながら、そば殻入りの枕を2000個ほど作って運んだりしました。これを聞きつけた教会外の方や他県の方々からもたくさんの応援をいただきました。



名前の由来は、もちろんナザレにおけるイエス・マリア・ヨゼフの聖家族です。聖家族に倣い、三教会を、主における共同体として共に成長することをモットーにしています。

ここ2年ほど

は、沿岸地域の仮設住宅などにお邪魔して、一緒に昼食を取りながらお話

しを聞いたり、手仕事の真似ごとをしたりしています。時には、包丁研ぎ、マッサージ、ソバ打ちなどの特技を持っている方の応援を頂き、また、札幌教区の宮古ベースにも時々お手伝いさせていただいております。三教会の皆さんはいうに及ばず、他教会・友人・知人などから物心両面のご支援をいただき、時にはこれでもいいのかと迷ったり、折れそうになる心を奮い立たせながら、互いに助け合い、小さいことでも、今自分たちに出来ることをと思い、祈りながら続けております。

（四ツ家教会 中村美栄子）

SDSC福島ブロック会議 会津若松教会

6月17日（月）午後1時より、カトリック会津若松教会で、仙台教区サポートセンターの第7回福島ブロック会議が開催された。平賀司教様をはじめ、仙台教区サポートセンターの関係者、司教協

議会の仙台教区支援担当濱口事務局長、カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）の方々、そして福島県内の各小教区から神父様方や支援に携わっている方々など、



40余名が集まった。最初に会津若松小教区が行っている、主として自主避難者に対する支援についての報告があった。質疑では支援活動の内容に、ある種の困難や戸惑いを感じながらもそこを越えるために知恵を出し合う話し合いが展開された。

次に、中間支援組織であるNPO法人ジャパン・プラットフォームの山中努さんから、活動内容の紹介があり、福島県の被災者に対する支援の具体的な例が報告された。更に司教協議会の濱口氏から、6月25日（火）から27日（木）まで実施される全国復興支援担当者会議とそのツアーについての説明があった。第一部を終了した。

第二部は、パトリシア・マテス・ケーン博士による、ストレスからの解放のための呼吸法と体操の講習が、避難者や支援者の癒しのためとして、約二時間にわたって行われ、和やかな雰囲気の中で、第7回福島ブロック会議は終了した。

この会議に、会津若松市のボランティア協議会の関係者や自主避難者をして人たちの参加があったことは、会津若松教会の支援活動が地域の組織と共に歩いているということである。会津若松教会が実質的に支援活動を始めたのは約一年前であった。その間、カトリック東京

ボランティアセンターや教区のサポートセンター、そして県内各小教区の先行支援活動などに支えられながらの支援であるが、それはある意味で極めて福音的であり、また、大変恵みに満ちた活動である。あの暑い日に、会津若松教会まで来られたすべての方々に、心からの感謝を捧げたい。

（会津若松 佐藤 大）

シスターズリレー終了

東日本大震災後、教区内のベイスでボランティアの支援のため、全国の修道会から交代でシスターを派遣してくださった。

2012年7月からは、修道会相互の連帯を深め、被災地の早期復興と被災された方々との絆を強めることを目的として、祈りのシスターズリレーを始めた。

総長管区長会に加盟している76の修道会が、1週間～2週間、各修道会の特色を生かしながら祈りを担当する。

南と北から同時にスタートして、今年5月仙台教区に本部を置くオタワ愛徳修道会と聖ウルスラ修道会が最終ランナーとしてゴールイン。

シスターの方々の多大な貢献に心からの賛辞と感謝をささげたい。



仙台教区「新しい創造」…第3期の取り組み

就任司祭の自己紹介



はじめまして、私は、那覇教区のボスコ（DUNONG・TRUNG・TIN）神父です。

ボスコ神父と呼んでください。1967年7月23日生れです。2004年3月30日にベトナムから来日し、2年間日本語学校に通い、卒業後2006年2月11日に

助祭叙階。2007年2月11日に那覇教区の安里教会で、司祭叙階の恵みをいただきました。開南教会、宮古島平良教会、首里教会で助任司祭として働き、2010年4月から3年間、石垣教会で主任司祭を勤めました。

今年6月から宮古教会で働くことになりました。よろしく願います。これからも、もっと日本語を勉強し、日本の皆様に神様の救いや平和を伝えていきたいです。

山浦玄嗣氏に 「バチカン有功十字勲章」

前教皇ベネディクト16世が、『ケセン語訳聖書』を出版した大船渡教会の山浦玄嗣氏に贈った「バチカン有功十字勲章」の授与式が、6月12日(水)、バチカン大使館(東京都千代田区)で行われました。

ジョセフ・チェノツトゥ教皇庁駐日大使の手により勲章が授与されました。

授与に先立ち平賀司教が、山浦さんがキリストの福音が土地



人権を考える委員会

仙台教区人権を考える委員会は、震災の影響で休会していましたが、2012年より活動を再開し、松ヶ丘教会、新生園教会と共にミサをささげるほか、現地実行委員会として東北新生園でハンセン病市民学会2012年東北大会宮城部会を開催するなど、引き続きハンセン病問題に教区として取り組み続けております。

か、ハンセン病問題にカトリック教会や仙台教区、信徒・修道者・司祭等が、どのような気持ちで、どう関わってきただのか、信仰者としての視点で記録してゆくことが教区の役割だと考え、松ヶ丘教会と新生園教会の記録を保存する活動を始めています。

また、ハンセン病市民学会にも定期的に委員を派遣し、ハンセン病を取り巻く問題や支援状況など最新の情報を学んでいます。2013年熊本大会には2名の委員が参加しました。無らい県運動の検証などを通じて、差別や隔離が実際はどのような根拠でどのような手続で行なわれたのか、キリスト教会系の私立療養所や、本妙寺のハンセン病集落など、国立療養所への隔離以外の可能性があったことなど、新しい研究・視点を学んだ大会でした。

(委員 御供真人)

の人の心に深くしみいるようにと『ケセン語訳聖書』の福音

書を作ったこと。また地域の人々のために献身的に医療活動に従事したこと等、受賞の理由を紹介しました。

その後駐日大使からお言葉があり、平賀司教の推薦の言葉に深く感銘を受けたこと、司教会議のさなかに司教さま方の臨席の下で授与できることは意義深いこと、そして400年前に仙台から派遣された慶長遣欧使節が当時の教皇パウロ五世に謁見したことに触れ、「今また仙台教区から福音を伝える大使が生まれました。山浦先生は仙台教区が産み出した子どもですから『仙台の子』と言えるでしょう」と述べ、山浦氏を輩出した仙台教区を讃えました。



この偉業にはもちろん大船渡市民や教会も喜びでいっぱいです。7月26日(金)には、大船

春の後藤寿庵祭

渡市長を発起人代表として祝賀会を開催することが決まりました。この会にはどなたでも参加できますので、教区の皆様で参加をご希望の方は大船渡教会熊谷雅也(090-2388-9112)までご連絡ください。

久しぶりに青空の下での野外ミサとなった今年の後藤寿庵祭。田植えが終わったばかりの田んぼへの祝別は、秋の豊かな実りを願う本当に春の後藤寿庵祭らしい光景でした。

ここ2年程、「後藤寿庵福原就封400年祭」のため、秋の各種の行事に重きが置かれ、春の後藤寿庵祭は水沢教会の聖堂で行われておりました。

大きな行事が終わったばかりとあって、どのくらいの方々が集まってくださるかとの心配もありましたが、遠くは関東方面



から、また宮城、岩手の各教会、そして地元の福原の方々、農業関係者といつも通りの方々にお祝い・お祈りをいただき、本当に心強くうれしく思いました。

共同祈願では、秋の収穫、そして3・11大震災の被災者への祈りも捧げられました。全体の参加者は約80名。来年(5月最終日曜日)もお待ちしております。

(水沢教会 千田和子)

「絆のローソク・リレー 総集編」を発行

東日本大震災で多大な被害を受けた地域と、多くの人々のために仙台教区を祈りで結び、「主においてわたしたちはひとつ」を確認し、絆を強めようと2011年7月3日「カトリック宮城県大会」から、2012年7月16日「カトリック岩手県大会」まで、教区内をくまなく回った「絆のローソク・リレー」の写真とメッセージを一冊の本にまとめた総集編が完成した。本誌は、ローソク・リレーが回った全ての教会・修道会・諸施設に配布された。

絆のローソク・リレー 総集編



カトリック仙台司教区

慶長遣欧使節 400 周年記念 ロゴス研究所講演会

遣欧使節 支倉常長——使命と信仰——
講師 元仙台市博物館学芸員 佐々木 和博

6月23日(日)、仙台ロゴス研究所(カトリック北仙台教会)では、支倉常長が、石巻の月の浦を出帆して400年を記念して表題の講演会を開催した。折しも19日、仙台市博物館所蔵の遣欧使節資料3点がユネスコの記憶遺産に登録されたこともあって、100余名が参加した。講演は、講師が独自に調べ上げた内容で、一般にあまり知られていないエピソードなど興味深い話で聴衆を魅了した。

◆世界記憶遺産に登録された3点について
十字架、ロザリオなどの他に、馬具などがあるが、「ロザリオの聖母」の絵のロザリオの玉の数が11個だったり、周りに描かれている聖人数人の顔がどれも同じだったりと、どうしてもキリスト教を知らない人が描いたときかと思えない。また、馬具は、ヨーロッパで使われているものではなく、中国製の可能性が高い。

◆国宝47点の中には、欧州と無関係なものが含まれている。
常長が欧州から持ち帰ったものとして国宝に指定された物には、「ロザリオの聖母」の絵、重要文化財に指定する際に、十分

今回の、記憶遺産に指定された3点は、帰国後、伊達政宗に献上したもののだが、他は、藩が支倉家改易(身分と所領の剥奪)の際に没収し、切支丹所(切支丹の取締り所)に保管していたもので、常長が帰りに立ち寄ったマニラで入手したものと思われる。国宝指定の前に、十分

記憶遺産に登録された
国宝・仙台市博物館蔵



に吟味されなかった可能性が高い。
◆巨大南蛮船の建造は慶長奥州地震の2年前に始まった。

使節派遣は、大地震からの復興のためと言われているが、それ以前に計画されていた。

政宗は、徳川家康から外交権を得た後、宣教師ルイス・ソテロを招いた。ソテロは、後藤寿庵を仲立ちに、メキシコ当時スペインの植民地)への派船を説得した。はじめは、メキシコまでの予定だったが、スペイン、ローマまで行かないと目的の交易と宣教師派遣は達成されないということで遣欧使節派遣が決まった。

サンファン・パウテスタ洗礼者ヨハネ号の名称は、後にメキシコで名づけられた。

乗員は180名、(徳川の侍10名、仙台的侍12名、日本人商人、水夫、家来120名、イスパニア人・ポルトガル人40名、ルイス・ソテロとビスカイノが便乗。

◆常長が遣欧使節に選ばれたのは、出発直前。後藤寿庵の口利き。

常長は、下級武士であり、実父(山口常成)が不祥事により切腹させられたこともあり、家禄が減らされるなど目立った武士ではなかった。遣欧使節の大役を命じられたのは、領地が隣接していた後藤寿庵の推薦があったからと考

えられる。当初正使節はソテロ、副使節に常長が予定されていたが、出港時には、正副が入れ替わった。

◆常長の受洗

一行は、3カ月の航海の後、1614年1月25日、アカプルコに到着。一行のうち42名が同年4月に受洗するが、常長は、スペインで洗礼を受けようとしたところでは受洗していない。

1615年1月にはスペイン国王フェリペ3世に謁見している。同年2月17日、フェリペ3世、その長女アンヌ・ドートリッッシュ臨席のもと洗礼を受ける。霊名は、フィリポ・フランシスコ。

フェリペ3世は、求めに応じて、宣教師の派遣と、毎年1隻を日本に送ることを決めていたが、日本でのキリシタン迫害が行われていることを知り、取りやめとなった。

◆教皇パウロ5世に謁見し貴族に任じられる。
1615年
11月3日、教皇に謁見

政宗からの書状を献上するが、日本でのキリスト教弾圧が始まっているため通商交渉は成功しなかった。しかし、教皇から、貴族に任じられ、さらに、常

長と家族、子孫をパラティーノ伯爵・騎士の称号と、私的礼拝所を設ける特別な許可が与えられた。

◆常長の信仰は、その子にも受け継がれている。

遣欧使節としての使命を果たせず失意のうちに1620年9月に仙台に戻った常長は、その2年後に没したとされている。常長の受洗は使節としての役目を果たすための方便だったと思われる向きもあるが、長男常頼や奉公人に信仰が受け継がれている。

常頼は、後にキリシタンとして捕えられ支倉家が改易となり、所蔵品が「切支丹所」に没収されたことから明らかである。



サンファンパウティスタ号(復元)と航路

エネルギーのクライシス(危機)

現在埋蔵されている化石燃料(原油、石炭)は堆積され始めたのが約2億年前とされています。人類はこの半分を200年強で燃やし尽くしてしまうのです。

たとえ新たな液化天然ガスを発見したとしても自然を人の手で支配しようとするなら、有限な地球は枯渇します。

エコライフスタイルを浸透させ、経済至上主義社会を見直し、修正すれば、需要と消費の乖離を嫌う資本家、そして原油国側の一部の権力者は戸惑うであろうが、地球的人類の価値を考え、人間の現実的な生き方を探求する上で、原発に頼らない社会が可能になると思います。

地球を大事にする会 Sr.相良なおみ

ハボンさんたちと祝う慶長遣欧使節 400 周年記念コンサート



宮城県が寄贈した支倉常長像

年には、宮城県からコリア・デル・リオ市に支倉常長像が寄贈されました。

使節団を乗せた同号は、現

大震災からの復旧に取り組むなか、伊達政宗は「サン・ファン・パウティスタ号」を建造し、2年後の1613（慶長16）年、支倉常長を長とする遣欧使節団を乗せた同号は、現

今から402年前の1611年、慶長奥州地震が起こり、大津波により仙台藩領だけでも1800人が亡くなりました。

常長ら一行はメキシコを経てスペインに渡ります。最初に上陸した町はコリア・デル・リオ。続いてセビリア、コルドバ、マドリッド、ローマを訪問しますが、行く先々の大都市で使節団一行は熱烈な歓迎を受けました。ローマからの帰路、使節団の一部が日本に戻らず、コリア・デル・リオ市に残留したといわれています。同市には現在、「ハボン」姓を名乗る人たちが80人以上いるとのこと

出帆400周年記念事業Ⅱ 俳句と合唱でつなぐ日西文化交流について

在の石巻市渡波地区の月の浦から、遠くメキシコに向けて出帆しました。ちょうど400年前のことです。

俳句と合唱でつなぐ日西文化交流
仙台コンサートは、元寺小路教会で8月4日（日）2時30分開演される。このプロジェクトには「カトリック仙台壮年の会代表 和野邦彦」と市民グループ「春風の家代表 小野敏子」が協賛し、はるばるスペインから来られる方々（約30名）を心からもてなしたいと実行委員会に参加して準備を進めている。スペイン語ミサに参加している方々には、石巻、仙台で通訳のボランティアをして下さることになっている。一行は8月4日9時30分のカテドラルでのミサに参加する予定。



ど400年目の2011年3月11日、東日本大震災が私たちに襲い、約2万人の尊い命が失われました。この知らせを聞いたハボンさんたちは、直ちに支倉常長像のもとに集まり、君が代を歌い、遠い故郷を悼む俳句を詠みました。俳句はその後、俳人・黛まどか氏「写真右」によって和訳され、石巻市に寄贈されました。

常長らが石巻からスペインに向かった慶長遣欧使節400周年の今年、日本を故郷として慕うハボンさんたちをスペインから石巻と仙台に招聘し、彼らの追悼に感謝したいと考えました。ハボンさんたちと共に、常長がスペインで最初に上陸したコリア・デル・リオ市の「コロ・サンタマリア合唱団」をもお招きし、石巻と仙台で記念コンサートを持つ予定です。同合唱団は宗教曲を得意とし、常長がフィリップ3世立会いの下にマドリッドで洗礼を受けた際に聴いたと言われるトマス・ルイス・デ・ビクトリア作曲「テ・デウム（われら神であるあなたを



コリア・デル・リオ市のサンタ・マリア合唱団

入場は無料ですが、会場に募金箱を置きますので、ご協力ください。募金は、プロジェクト

それぞれ元気な歌声を聴かせてください。

「讃えん」を披露していただきます。迎える私たちは、石巻コンサートでは、震災以後、明るい歌声で石巻市民を励まし続けてきた石巻市民合同合唱団の皆さんが、また仙台コンサートでは、震災後いち早く、ニューヨーク・カーネギーホールにて被災地からの元気な歌声を披露して日本の健在を示した合唱団「萩」が、それぞれ元気な歌声を聴かせてください。

の運営資金とさせていただきます。また、入場整理券が必要です。整理券は、元寺小路教会云022-222-5507 Sr.内原にお問い合わせてください。なお、仙塩地区各教会の方は、仙台壮年の会教会代表にお申し出ください。

<石巻コンサート>

賛助出演：石巻市民合同合唱団

8月2日（金）6:00p.m.開演（5:30開場）

会場：石巻市中央公民館大ホール

入場無料

演目：石巻わがふる里

忘れない忘れまい、他

<仙台コンサート>

賛助出演：合唱団「萩」

8月4日（日）2:30pm 開演（2:00開場）

会場：カトリック元寺小路教会聖堂

入場無料

演目：O Magnam Mysterium (Victoria)

斉太郎節、他

主催：ハボンさんたちと祝う慶長遣欧使節 400 周年記念石巻コンサート実行委員会

ハボンさんたちと祝う慶長遣欧使節 400 周年記念仙台コンサート実行委員会

共催：コリア・デル・リオ市、石巻市、ハボン協会（コリア・デル・リオ）

9.11 風の環コンサート（米国NJ州NPO）

協賛：石巻市文化協会、石巻観光協会、石巻市国際文化協会、

カトリック仙台壮年の会、市民グループ「春風の家」

後援：宮城県、河北新報社、石巻日日新聞、東北放送、石巻コミュニティ放送

金 祝(司祭叙階50周年)
おめでとうございます。

佐々木 博神父

原町教会出身。



1963年6月
8日に留学中の
カナダ・オタワで

仙台教区初代教区長ルミュー大
司教により司祭に叙階される。

十和田教会では、7月14日(日)
午前10時より、平賀司教主司式の
ミサ。その後十和田市内のホテル
で祝賀会を行う予定。

子どもの祈りの集い

「ミサ」を学ぶ
子どもたちの信仰教育のため
に、年3回行っている仙塩地区
「子どもの祈りの集い」の今年度
第1回目が、6月1日(土)、西
仙台教会で行われました。運動会
や発表会などと重なって、参加し
た子どもたちは13人と少なかつ
たのですが、「ミサ」をテーマに
した祈りの集いで、ともにミサに
参加しながら、有意義な時を過
しました。

仙塩地区日曜学校の担当司
祭・森田直樹神父の指導で、祭壇
を囲み、1つの輪となって、ミサ
に参加しました。ある時は「これ
はどんな意味だと思っ」と聞かれ
たり、「アーメン」という言葉と
「また司祭と共に」と答えること
ろでは、手話を教わり、みんなで
その動作をしながらミサに参加
するという新しい試みに、参加し

た小学校1年生から6年生まで
の子どもたちすべてが、興味と関
心をもって、楽しんで、ミサに参
加することができました。
参加した子どもたちだけでな
く、参加した父母やリーダーたち
も、「もっと、こういうお話しを
聞きたいです」という要望を、森
田神父に一生懸命伝えている姿
が印象的でした。



西仙台教会 上野 隆



私がカトリ
ックに触れた
最初は、今から
50年以上前に
家の中でただ
ひとりカトリ
ックだった祖母につれられて近
所の教会に行ったときにはじま
ります。札幌の家から歩いて5分
ほどのところにカトリック北十
一条教会という大きな教会があ
りました。この教会は教区の教会

ではなくフランススコ会の経営
で教会の横に大きな男子修道院
がありました。高齡のドイツ人の
神父さまが主任司祭でしたが、そ
の他にも日本人の神父さまが何
人かおられたように思います。祖
母に連れられて私はよく朝6時
30分のミサに参加しました。当時
は勿論ラテン語のミサで、祈祷書
とカトリック聖歌集を手にして
のミサでした。まだ、「聖書と典
礼」もなければ典礼聖歌集もあり
ませんでした。「あなたの信仰の
原点は？」と訊かれると、私はや
はりこの
頃のことを
思い出出
します。
厳しくお
ごそかだ
った朝ミ
サの参列



者の祈りの声や、その後すぐ入
学したカトリック系の私立光星中
の聖堂で出会ったリアルで
生々しい十字架上のイエス像に
思わずハッとしたり経験とか、懐か
しく思い出します。私はその後カ
トリックというものに随分反感
をもち何年も教会に行かなくな
る時期を過ごすことになりました。
今では、カトリックも随分変わっ
たわけですが、私にとつての原点
とはやはりあの50年前にあるよ
うに思われます。
↑現在の北十一条教会



新刊案内

ゆるしへの道

著者 イマキュレー・イリバギザ ステ
イーヴ・アーウィン／訳者 原田葉子
発行 女子パウロ会 定価 1400
円＋税

いま、仙台教区に住む私たちは、東
日本大震災のことで、心も頭もいっ
ぱいで、かつてアフリカのルワンダで1
つの種族が他の種族を虐殺したとい
うことを忘れ去っているかもしれない
せん。本書は、1994年に起こった
ルワンダでの100万人以上のツチ族
が、フツ族によって殺戮された時、カ
トリック信者であったイマキュレー
という名前の一女性が、どのような体
験をしたか、両親や兄弟、親戚、友人
を殺した人々をどのようにゆるせた
か、を書いたものです。

大学生であったイマキュレーは、ツ
チの人にも親切な牧師さんの家に逃
げ込みました。その牧師さんの寝室の
隅にある自立たないトイレに6人の
ツチの女性、後に2人が加わり、8人
が1m四方のトイレに息をひそめ、重
なり合って約100日間隠れ通すことが
できました。毎日のような家捜しの中
でも、どうやら生き延びることができ
たのです。

本書を通じて、どんな過酷な状況の中
にあっても、信仰を失わず、神に信頼
して祈り続ける彼女の生き方に、読者
は心打たれることでしょう。神は、祈
りを必ず聞いてくださる、必要な
ときに助けの手をさしのべてくださ
るのだと感じることでしょう。

生き延びたのは、神がまだ使命を与
えてくださっているとの確信しながら
も、まだまだ続く苦しさの中で、神と
向き合い、人をゆるすことによって自
分も癒されていく彼女の生き方は、信
仰のすばらしさ、神への希望と愛を伝
えてくれます。

告知板

◆ 一日の祈りの集いのお知らせ

「霊性センターせせらぎ in 仙台」より

今立っている現実から祈って神に出会うこ
とができるようにヘルパーが個人的にお手伝
いをします。初めての方も安心してご参加く
ださい。

日時：①7月15日(月) ②9月23日(月)
③11月4日(月)

9:15(受付)～16:00 ミサ その後解散

会場：オタワ愛徳修道女会 東仙台修道院

費用：1回 1,000円

持参するもの：聖書、筆記用具、弁当

申し込まれる方は、希望する日、氏名、所
属教会を記入し、下記メールまたはFAXに
てお申込ください。3回続けて参加すること
もできます。

メール s.c.o.jp@estate.ocn.ne.jp

FAX 022-293-3675